

歴史総合、世界史探究

【I】「歴史総合」の授業で、高橋さんと田中さんは「各国における普通選挙制度の実現と背景」というテーマを追求した。次の会話文を読み、設問に答えなさい。

先生：次の表は、各国において普通選挙が実現した年を男女別に示したものです。この表からどのようなことがわかりますか。

高橋：いちばん早いのはフランスで、アメリカとドイツは、1870年くらいのほぼ同じ時期に男性の普通選挙制を実現しています。

田中：イギリスと日本は、それよりも少し遅く、20世紀初頭に男性普通選挙が実現しています。

先生：フランスで本格的な普通選挙制が実現した

表 各国において普通選挙が実現した年		
国名	男性	女性
フランス	1848	1945
アメリカ	1870	1920
ドイツ	1871	1919
イギリス	1918	1928
日本	1925	1945

① 1848年というのは世界史において重要な年でした。 この年にフランスではどのようなことがあったかわかりますか。

高橋： A の反動的政治に対して、ヨーロッパでは自由主義やナショナリズムが高まり、二月革命によって第二共和制が誕生しました。

先生：そうですね。男性普通選挙はフランス革命時にも一時的に実施されましたが、フランス革命の精神を受け継いだ第二共和制の下で、本格的に実施されることになりました。

田中：アメリカとドイツで、1870年頃に普通選挙が実現したのはどうしてでしょうか。

先生：それは国家としての統一性と関係しています。この時期のアメリカやドイツではどのようなことが起こったのでしょうか。

田中：アメリカでは、南北戦争の結果、南北の分断が解消されました。また奴隷制が廃止され、1870年に黒人男性に選挙権が認められました。ドイツでは、ドイツ諸国が統一され② 1871年にドイツ帝国が成立しました。

先生：普通選挙制は、国民に等しく選挙権を与える制度ですから、「この国は自分たちの国

だ」と考えることができる、統一された国家や同質な国民を前提としています。こうした国家を「B」といいますが、アメリカとドイツはほぼ同時期に「B」を形成したといえます。

高橋：ヨーロッパのなかでも、イギリスは普通選挙制の実現が遅いですね。古くから議会制が確立していたイギリスで、普通選挙制が実現しなかったのは意外です。

先生：イギリスでは、議会制が確立していたため、革命ではなく改革によって政治的・社会的問題に対処することができました。19世紀を通じて、選挙権は労働者や農村労働者にも徐々に拡大されていき、完全な男性普通選挙制が実現したのが1919年でした。

高橋：日本もイギリスと同時期ですが、イギリスの影響を受けたのでしょうか。

先生：そうですね。日本の場合、議会の開設自体が1890年ですから、普通選挙制に限って言えば、直接的にはイギリスの影響と考えられます。しかし、さまざまな政治的、思想的、社会的背景^③の結果、この時期に普通選挙制が実現したといえます。

田中：女性参政権はどうでしょうか。アメリカとフランスを除いたヨーロッパでは、1920年前後、フランスと日本は1945年となっています。

先生：1919年や1945年にはどのようなことがあったのでしょうか。

田中：第一次世界大戦が終結し、1919年にヴェルサイユ条約が結ばれました。1945年には、ドイツと日本が無条件降伏して第二次世界大戦が終結しています。

高橋：女性参政権の実現は戦争の影響なのかな。

先生：そうですね。世界大戦はそれまでの戦争と異なり総力戦でした。男性が出征して発生した人手不足を埋めるために、女性が労働を担い、戦争を支えることが必要でした。そのことが、女性の社会進出を進めるとともに、男性に女性の価値を認めさせることにつながりました。

田中：戦争前には女性の権利を求める声はなかったのですか。

先生：もちろん女性の権利や参政権の主張はもっと古くフランス革命のころから見られました。男性普通選挙制の実現と同じ年の1848年にはアメリカのセネカ＝フォールズ^④で女性権利大会が開かれ、女性参政権を含む男女平等を掲げる運動が始まりました。

田中：1848年は、女性参政権にとっても重要な年なんですね。

設 問

1. 下線部①に関連して、1848年に世界で起こったできごととして適切でないものを、
選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 1

ア. 財政破綻やロシアの干渉の危機を回避するため、近代国家の体裁を整えようとしたオスマン帝国は、宰相ミドハド＝パシャの起草したオスマン帝国憲法(ミドハド憲法)を発布した。これはアジアで最初の憲法だった。

イ. 二月革命の影響により、オーストリアとプロイセンでは三月革命が起き、ウィーン体制が崩壊した。オーストリアでは、ハンガリー、ボヘミア、イタリアなどで民族独立を求める運動が起こり、これらの動きは「諸国民の春」と呼ばれる。

ウ. マルクスとエンゲルスにより『共産党宣言』が公刊された。これ以降、社会の対立軸が、従来の君主対市民から資本家階級対労働者階級に移っていくことになった。

エ. アメリカ＝メキシコ戦争で、アメリカはカリフォルニア地域を獲得し、大陸を横断する国家となった。カリフォルニア西部で金鉱が発見され、ゴールドラッシュが起こった。

2. 会話文中の空欄 A には後の記述 a か b、空欄 B には c か d、のいずれかが当てはまる。空欄 A ・ B に当てはまる語句の組み合わせとして適切なものを、
選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 2

Aに当てはまる語句

- a. ウィーン体制 b. 帝国主義

Bに当てはまる語句

- c. 全体国家 d. 国民国家

- ア. A-a B-c イ. A-a B-d ウ. A-b B-c エ. A-b B-d

3. 下線部②に関連して、黒人の選挙権について関心を持った高橋さんは、実際にアメリカ合衆国憲法を調べたところ、資料Aを見つけ、憲法によって黒人の選挙権が保障されていることを確認した。しかし、高橋さんはアメリカ合衆国憲法には資料Bのような条項もあることに気づき、資料Aとの間に矛盾を感じたため、資料Bの背景について調べ、メモにまとめた（なお、資料には、省略したり、あらためた箇所がある）。メモの空欄 には後の記述aかb、空欄 にはcかd、のいずれかが当てはまる。空欄 ・ に当てはまる語句の組み合わせとして適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。

資料A

修正第15条 [選挙権の拡大] [1870年成立]

第1項 合衆国またはいかなる州も、人種、肌の色、または前に隷属状態にあったことを理由として、合衆国市民の投票権を奪い、または制限してはならない。

資料B

修正第24条 [選挙権にかかわる人頭税の禁止] [1964年成立]

第1項 合衆国またはいかなる州も、大統領もしくは副大統領の予備選挙その他の選挙、大統領もしくは副大統領の選挙人の選挙、または連邦議会の上院議員もしくは下院議員の選挙において合衆国市民が投票する権利を、人頭税その他の税を支払っていないことを理由にして奪い、またはこれを制限してはならない。

メモ

資料Aが示すように、南北戦争の結果、奴隷制が廃止され、解放された黒人男性に投票権が与えられたが、黒人が自由に政治参加できるようになったわけではなかった。合衆国に復帰した は、有権者登録の際に人種、肌の色の以外の資格を設ける法律を制定した。その1つが人頭税の支払いであり、奴隷解放後も貧しい生活を送る多くの黒人が投票権を放棄するよう仕向ける目的があった。アメリカにおける黒人の政治参加の自由は、1950年代後半からの を待たなければならなかった。資料Bは の成果を示すものである。

Xに当てはまる語句

- a. 南部諸州 b. 北部諸州

Yに当てはまる語句

- c. チャーチスト運動 d. 公民権運動

ア. X-a Y-c イ. X-a Y-d ウ. X-b Y-c エ. X-b Y-d

4. 下線部③に関連して、日本において普通選挙制が実現した背景について関心を持った田中さんは、その背景について調べ、ノートに以下のようにまとめた。ノートの空欄 には後の文章のaかb、空欄 にはcかd、のいずれかが当てはまる。空欄 ・ に当てはまる文章の組み合わせとして適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。

1. 政治的背景

- 第一次護憲運動による大正政変(1913)
- 米騒動をきっかけに、本格的な政党内閣として原内閣が成立(1918)
- 第二次護憲運動により総選挙で護憲三派が勝利(1924)
 - 藩閥政治を批判し、国民の意思を反映した政党政治を求める声が高まった。

2. 思想的背景

- 美濃部達吉の天皇機関説
- 吉野作造の民本主義
 - .

3. 社会的背景

- 産業の発展による工業化と都市人口の増加
 - .
- 教育の普及と大衆文化の広まり
 - 雑誌や新聞などのマスメディアが発達し、世論に影響を与えた。

Xに当てはまる文章

- a. 国民主権を主張し、天皇制からの転換を求めた
- b. 大日本帝国憲法下でも、事実上の議会制民主主義は可能であることを示した

Yに当てはまる文章

- c. 所得水準が向上したため、共産主義的な思想への関心が薄れた
- d. 労働者運動が高揚し、労働者争議、小作争議などが多発した

ア. X-a Y-c イ. X-a Y-d ウ. X-b Y-c エ. X-b Y-d

5. 以下に示した資料CからFはいずれも、19世紀以前に女性参政権について述べられた文章の一部である(資料には、省略したり、あらためた箇所がある)。これらの資料のうち、会話文の下線部④の大会において採択された宣言を表わす資料として適切なものを、選択肢から1つ選び、その記号をマークしなさい。 5

資料C

女性たちは、最高存在の前に、かつその庇護のもとに、以下のような女性および女性市民の諸権利を承認し、宣言する。

第1条 女性は、自由なものとして生まれ、かつ、権利において男性と平等なものとして生存する。……

第2条 あらゆる政治的結合の目的は、女性および男性の、時効によって消滅することのない自然的な諸権利の保全にある。これらの諸権利とは、自由、所有、安全および圧制への抵抗である。

資料D

……宗教と理性は、普通の道を歩む女性には、妻および母親としての義務を果たすことを命じていると思うけれども、特に優れた能力を持っている女性が社会に貢献し独立する、という更に大きな計画を遂行していこうとする時には、そのための道が開かれていないのだから、私は悲しまずにはいられない。こんなことをいったら笑われるかもしれないが、女性が政治の審議に直接参加することが全くゆるされずただ独断的に支配される、というのではなくて、自分たちの代表者を持つべきだ、と私は本当に考えているのだ。そして私は、それをいつの日にか実現させたいと思う。

資料E

われわれは、以下のことを自明の真理と考える。それは、すべての男性と女性は平等に作られ、創造主によって一定の譲り渡すことのできない権利を与えられており、その権利には生命、自由、幸福の追求が含まれているということである。……

選挙権という市民に第一に与えられるべき権利を女性から奪い、議会の場で女性が代表されることがないままに放置することで、男性は女性をすべての面において抑圧してきた。

資料F

女性が参政権から排除されていることは、参政権がすべての男性に広く開かれていく度合に応じて、より大きな罪となり、より大きな権利の剥奪となっている。片方の性がいわば貴族として、特権を与えられた唯一の階級となっているがゆえに、参政権から排除された側の性の隷従はより明確で完全なものとなっているのである。

ア．資料C

イ．資料D

ウ．資料E

エ．資料F

【Ⅱ】 次の文章を読み、設問に答えなさい。

395年にテオドシウス帝が亡くなると、ローマ帝国は東西に分裂した。東ローマ帝国は、ギリシア正教会とギリシアの古典文化を融合した独自の文化を築いた「ビザンツ帝国」へと①発展していった。ビザンツ帝国の首都⑥は、ヨーロッパ世界の最も大きな貿易都市として繁栄した。また、ビザンツ皇帝は、ギリシア正教会を支配する立場にあり、地上における「キリストの代理人」としてその権勢をふるった。

476年にゲルマン人傭兵隊長⑦によって西ローマ帝国が滅亡した後も、しばらくのあいだは、ゲルマン諸国もビザンツ皇帝の権威にしたがっていた。もっとも、ゲルマン②諸国家はいずれも長続きしなかった。その中で、領土を拡大していったのはフランク王国だった。

481年に全フランクを統一した⑧はメロヴィング朝を開いて、正統とされていたアタナシウス派キリスト教に改宗した。フランク王国はこれによってローマ人貴族を取り込んで西ヨーロッパの中心勢力となった。6世紀半ば、フランク王国は全ガリアを統一したが、8世紀にはいるとメロヴィング朝の支配力は弱まった。

この頃、イスラーム勢力が④ピレネー山脈を越えてガリアに侵攻しようとした。メロヴィング朝の宮宰カール＝マルテルは、732年に⑨でイスラーム勢力を撃退して西方キリスト教世界を守った。カール＝マルテルの子⑤ピピン3世(小ピピン)は、751年に⑥カロリング朝を開いてビザンツ帝国やイスラーム教圏とは異なる独自の世界を形づくっていった。

1. 空欄 ～ に入る語として適切なものを，選択肢からそれぞれ1つずつ選び，その記号をマークしなさい。

 ア. コンスタンティノープル イ. アテネ
 ウ. ミケーネ エ. ヴェネツィア

 ア. アッティラ イ. オドアケル
 ウ. テオドリック エ. アラリック

 ア. ルートヴィヒ イ. ヴァレンシュタイン
 ウ. クローヴィス エ. クヌート

 ア. トロイ戦争 イ. ポエニ戦争
 ウ. サラミスの海戦 エ. トゥール・ポワティエ間の戦い

2. 下線部 ① に関連して，ギリシア正教会の説明として適切なものを，選択肢の中から1つ選び，その記号をマークしなさい。

ア. ギリシア正教会では，典礼(礼拝)にギリシア語を用いた。

イ. ギリシア正教会は，東欧や中東を中心に広まった。

ウ. ギリシア正教会は，自らキリスト教異端派の1つであると主張した。

エ. ギリシア正教会は，西ローマ帝国の滅亡をきっかけとして，ローマ＝カトリック教会と完全に分裂した。

3. 下線部 ② に関連して、4 世紀後半のフン人による東ゴート人の征服から始まったゲルマン諸部族の移動により建国された国について、地域と部族の組み合わせとして適切なものを、選択肢の中から 1 つ選び、その記号をマークしなさい。 11

	地 域	部 族
ア	北アフリカ	アングロ＝サクソン人
イ	ガリア北部	ヴァンダル人
ウ	大ブリテン島	ブルグンド人
エ	イベリア半島	西ゴート人

4. 下線部 ③ に関連して、5 世紀ころのゲルマン人の信仰の説明として適切なものを、選択肢の中から 1 つ選び、その記号をマークしなさい。 12

- ア. 当時、ゲルマン人の多くは異端であるアリウス派のキリスト教を信仰していた。
 イ. 当時、ゲルマン人の多くはイスラーム教を信仰していた。
 ウ. 当時、ゲルマン人の多くは多神教を信仰していた。
 エ. 当時、ゲルマン人の多くは異端であるカタリ派のキリスト教を信仰していた。

5. 下線部 ④ に関連して、イスラーム教の説明として適切なものを、選択肢の中から 1 つ選び、その記号をマークしなさい。 13

- ア. 7 世紀前半にアラブ諸部族のあいだに広まったイスラーム教は、ユダヤ教とミトラ教の流れの上で誕生した。
 イ. メッカでイスラーム教を唱えたムハンマドは、自らを神の言葉をあずかる「預言者」を名乗った。
 ウ. ムハンマドは、ユダヤ教徒の信じる『旧約聖書』と、ゾロアスター教徒の信じる『リグ＝ヴェーダ』を啓示の書とした。
 エ. イスラーム教は多神教である。

6. 下線部 ⑤ に関連して、ピピン3世(小ピピン)の説明として適切なものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 14

- ア. ピピン3世は、ローマ＝カトリック教会の要請により、イベリア半島を征服した。
- イ. ピピン3世は、フランク王国をビザンツ帝国に寄進して、ビザンツ帝国フランク総督を自称した。
- ウ. ピピン3世は、ランゴバルド王国から奪ったラヴェンナ地方を教皇に寄進した。
- エ. ピピン3世の子カール大帝(シャルルマーニュ)は、教皇グレゴリウス1世から破門された。

7. 下線部 ⑥ に関連して、カロリング朝フランク王国の説明として適切なものを、選択肢の中から1つ選び、その記号をマークしなさい。 15

- ア. カール大帝の時代に宮廷にアヴェロエスなどの学者を招いて、ラテン語による文芸復興が起こった。
- イ. 全国は州にわけられ、地方の有力豪族は各州の長官である公に任命された。
- ウ. カール大帝の死後、ヴェルダン条約とメルセン条約を経て、フランク王国は3つに分割され、それぞれ現在のドイツ、フランス、イタリアのもとになった。
- エ. カロリング家の断絶後、西フランク王国は、ザクセン家のオットー1世が即位し、その後、神聖ローマ帝国になった。

【Ⅲ】「近世ヨーロッパ世界」について、次の各文の空欄〔16〕～〔25〕に入る語として適切なものを、選択肢からそれぞれ1つずつ選び、その記号をマークしなさい。

1. 近世ヨーロッパでは文芸・科学・芸術など多様な方面で文化活動が展開された。これをルネサンスという。このルネサンス時代を代表する画家の多くはイタリア出身だが、ネーデルラント出身の〔16〕は民衆の生活を克明に描いた。

ア. レオナルド＝ダ＝ヴィンチ

イ. ラファエロ

ウ. ボッティチェリ

エ. ブリュエール

2. ルネサンス期の教会建築は大円蓋と列柱を特徴するものである。カトリック教会の総本山である〔17〕は、現在も有名な観光場所の1つである。

ア. サンタ＝マリア大聖堂

イ. サン＝ピエトロ大聖堂

ウ. サン＝マルコ大聖堂

エ. ハギア＝ソフィア聖堂

3. 16世紀の宗教改革はヨーロッパ各地で行われたが、イングランド(イギリス)では〔18〕が宗教改革を主導した。〔18〕は、離婚と再婚を認めなかった教皇と対立して、首長法を定めた。これにより国王を首長とするイギリス国教会が成立した。

ア. エリザベス1世

イ. エドワード6世

ウ. ヘンリ8世

エ. メアリ1世

4. 16世紀の神聖ローマ帝国は、大小の領邦が分立していたため中央集権化が難しく主権国家の形成が遅れていた。また、旧教・新教の宗派対立などもあり、三十年戦争へと突入していった。この戦争を終結させたのは、1648年の[19]であった。これによりオランダとスイスの独立が正式に認められた。

ア. ピレネー条約

イ. ユトレヒト条約

ウ. ウェストファリア条約

エ. ネルチンスク条約

5. スペインは、広大な植民地を含む「太陽の沈まぬ帝国」を手中にした[20]の時代に最盛期を迎えた。さらにフランスと講和してイタリア戦争を終結させたが、それにより人の移動が自由になり、後の反乱へと展開することとなった。

ア. カール5世

イ. フェリペ2世

ウ. フェルナンド5世

エ. フェリペ3世

6. スペインから独立したオランダは、首都[21]を中心に、造船・貿易・金融など経済的繁栄によりヨーロッパをリードした。17世紀のオランダはヨーロッパでもっとも都市化が進んだ。また、宗教や思想に寛大な雰囲気広がりが、学問や出版でもヨーロッパの中心となった。

ア. アムステルダム

イ. ベルリン

ウ. マドリード

エ. アントワープ

7. オランダが台頭すると、イングランド(イギリス)やフランスはオランダの自由貿易を妨害する経済政策をとるようになった。さらに戦争によって領土を失うなどしたため、オランダの国力は衰退しはじめた。他方で、エリザベス1世の死去後、イングランドはスコットランドから国王を迎え、両国は同君連合である〔22〕を形成し、1707年にはスコットランドと国家合同してグレートブリテン王国を形成した。

ア. テューダー朝

イ. ステュアート朝

ウ. ハノーヴァー朝

エ. ウィンザー朝

8. フランスはイギリスとは異なり、中央集権化を進める形で国家を発展させた。わずか4歳でルイ14世が即位すると、母後のアンヌが摂政となり、教育係であった枢機卿の〔23〕が政治を行った。〔23〕が亡くなるとルイ14世は半世紀にわたる親政を開始し、絶対王政をきわめ「太陽王」と呼ばれた。彼が造営した巨大なヴェルサイユ宮殿は、各国の宮殿・宮廷のモデルとされた。

ア. マザラン

イ. コルベール

ウ. ネッケル

エ. リシュリュー

9. 中世後期のヨーロッパにおける科学革命は、やがて人間社会への考察にも向けられ、近代的な自然法を探究しようとする試みがホッブズらによって始められた。グロティウスは、自らの著書〔24〕の中で自然法思想を国家間の関係に適用して「国際法の祖」となった。

ア. 『リヴァイアサン』

イ. 『法の精神』

ウ. 『戦争と平和の法』

エ. 『統治二論』

10. ゲーテンベルクによる活版印刷術の改良により大量の印刷が可能となった。18世紀になると書物に限らず、新聞雑誌などの出版業がヨーロッパで発達した。こうした出版物は、都市において様々な集いの場で読まれ、討論の対象となり、世論の形成に貢献した。フランスではこのような社交場は 25 と呼ばれ、主人が女性であることも多かった。

ア. コーヒーハウス イ. パブ ウ. セルクル エ. サロン

(問題終わり)